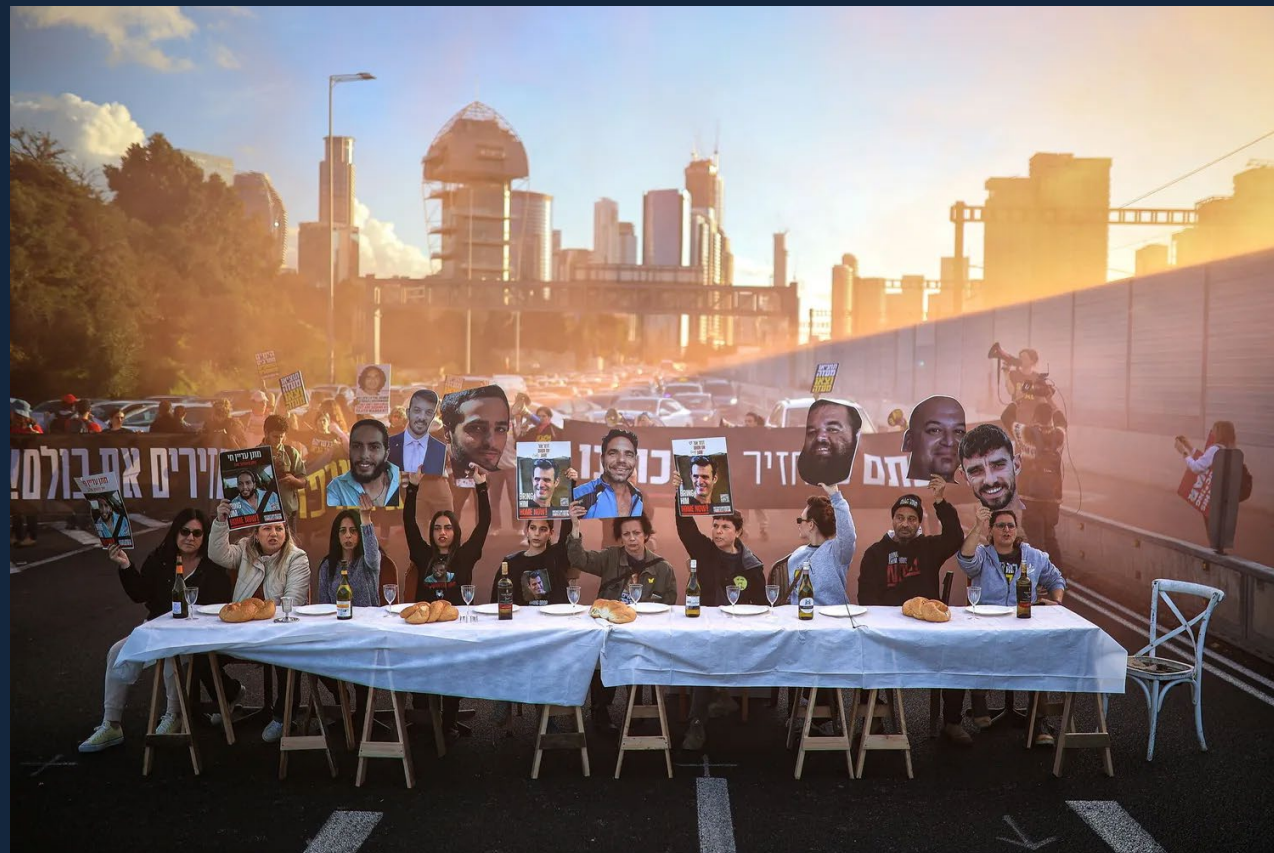


人質政治に見る ジェンダーギャップ

政策態度と社会運動参加の研究

浜中新吾・羽渕有稀（龍谷大学）

日本政治学会 2026年度研究大会 C2-2



Demonstration in Tel Aviv 2025 ©Itai Ron

問題設定

いかなる安全保障上の選択においてジェンダー差が顕在化するのか



観察される現象

女性団体、母親、祖母が人質帰還運動を牽引
白い服を着た沈黙抗議など、女性の行為主体性が明確

本研究の問い

人質政治のジェンダーギャップは、どのような条件で現れ、政策態度から社会運動にまで及ぶのか、を問う。



人質帰還と武装組織壊滅のどちらを優先するのか、を突きつけられると、ジェンダーギャップが現れる。

本研究の形式

本研究は探索的研究である

本研究の位置づけ



予め宣言しておくべき方法上の注意

本研究は因果メカニズムを識別する精密な研究ではなく、複数の世論調査や観察データを用いて、人質政治におけるジェンダー差の存在、条件、範囲の記述を目的とする。

理論と仮説検証のスタイルではありますが・・・

研究デザインの都合上、識別問題が解決されないで、変数間関係はあくまで相関関係でしかありません。

メカニズムを検討する探索的分析

安全保障と人質政治



10.7から2023年ガザ戦争へ

ハマースによる奇襲作戦と誘拐

→性暴力疑惑フレーミング

→ 「停戦を伴う取引しかない」 発言

→ 停戦と「人質交換」

→ 人質家族の動員

ジェンダー化される人質政治

性暴力疑惑フレーミングや人質家族の動員
が見られる中で、人質政治がジェンダー化
した？



Women and Peace Hypothesis から政治態度と社会運動参加の仮説導出

古典的WPH

女性は無力行使を避け、妥協や外交交渉を好む。
イスラエルでも人質解放への賛意は女性がより多い。

仮説 1 : 一般的な人質帰還の要求に関して、女性は男性よりも高い支持態度を示す

WPH:近年の修正

ジェンダー差は条件で変化する。競合する政策目標がある時、人質帰還の優先においてジェンダー差が表れる可能性

仮説 2 : 女性は男性に比べて競合する政策目標よりも人質帰還を優先する

社会運動への接続

ジェンダートピックでない社会運動がジェンダー化
拉致被害者の解放を求める社会運動で可視化

仮説 3 : 女性は男性に比べて、人質帰還を求める社会運動により多く参加する。ただしこの差は他の社会運動参加には現れない。

人質政治では複数の戦争目標が競合することがある

ハマースの打倒

軍事的圧力による組織・統治
能力の破壊
囚人交換の抑制
戦闘継続を優先

政策選択

どちらを
優先するか

人質の帰還

交渉と取引による解放
停戦・囚人交換を容認
人的損失の回避を優先

人質帰還への一般的支持より、代償を伴うトレードオフで選好差が現れる可能性

社会運動参加のジェンダーギャップ

反司法改革デモ

イスラエル社会を二分する
政策課題

ネタニヤフ政権 vs 司法の
構図



人質帰還デモ

交渉と取引による解放

停戦・囚人交換を容認
人的損失の回避を優先



プライムされるのは民主主義、
そして国民の生命
この違いにジェンダー差は見られるのか？
見られるとすれば、なぜか？

Data and Methods

Israel Democracy Institute (IDI)

Voice Index January 2024, June 2024 (仮説1, 仮説2)

- ・人質帰還への政策支持にジェンダーギャップがあらわれる条件
- ①人質帰還要求への一般的な支持
 - ②人質帰還が他の戦争目標（ハマースの打倒）と競合する場合
 - ③戦争終結やイスラエル国防軍の撤退を含む包括的な人質解放交渉への支持

Israel National Election Studies (INES)

Off-cycle Study 2025 (仮説3)

- ・人質帰還運動への参加確率
- ・反司法改革運動への参加確率との比較

説明変数：女性 (1), 男性 (0)

コントロール：年齢層、イデオロギー、宗教性、世帯所得

モデル：ウェイト付きロジット

平均限界効果 (AME)

Result

・ 政策態度におけるジェンダーギャップ

①人質帰還要求への一般的な支持（H1:2024年6月調査）

- ・ アウトカム：全ての人質を解放する取引への支持
- ・ 独立変数：ジェンダー(女性 (1)・男性 (0))
- ・ 全人質の解放を支持する確率は男性が73.70%, 女性が74.90%であり、男女を問わず広く支持されていた。

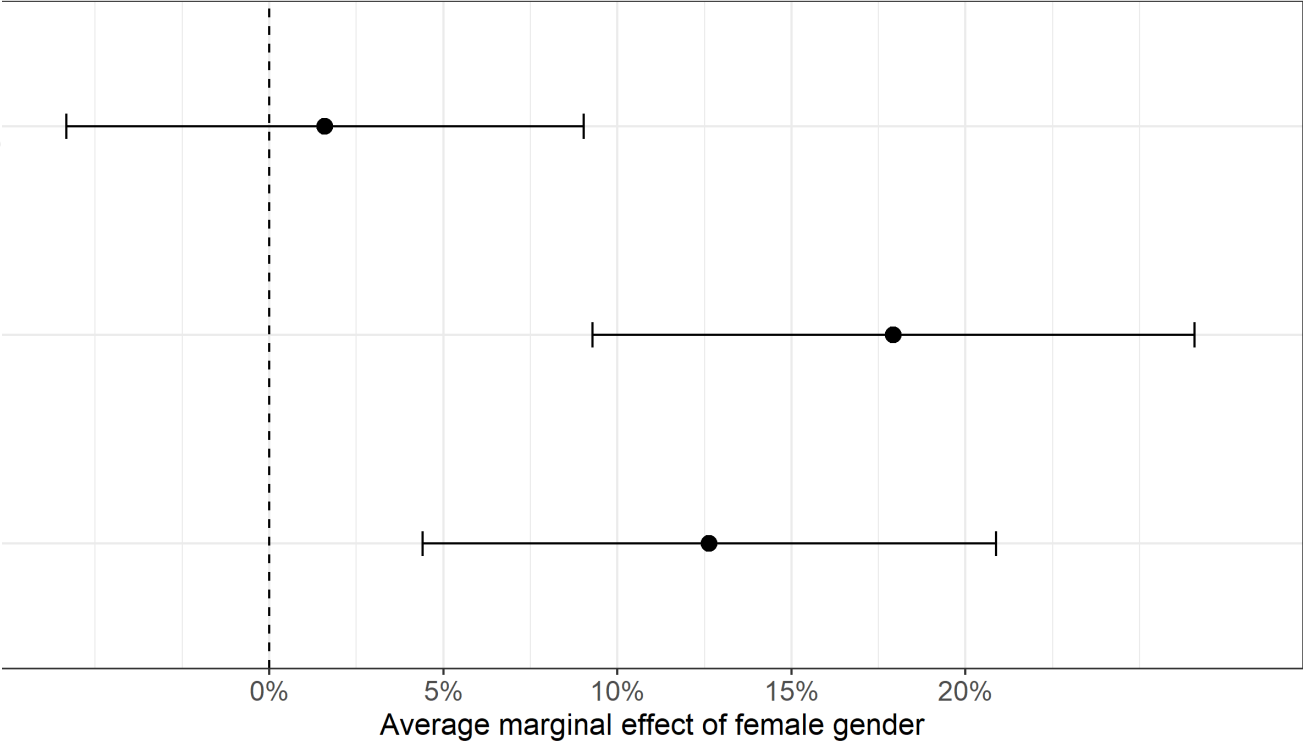
②政策目標の競合（H2: 2024年1月調査）

- ・ アウトカム：戦争目標(人質帰還 (1)・ハマースの打倒 (0))
- ・ 独立変数：ジェンダー (女性 (1)・男性 (0)) →17.93

③包括的合意（H2: 2024年6月調査）

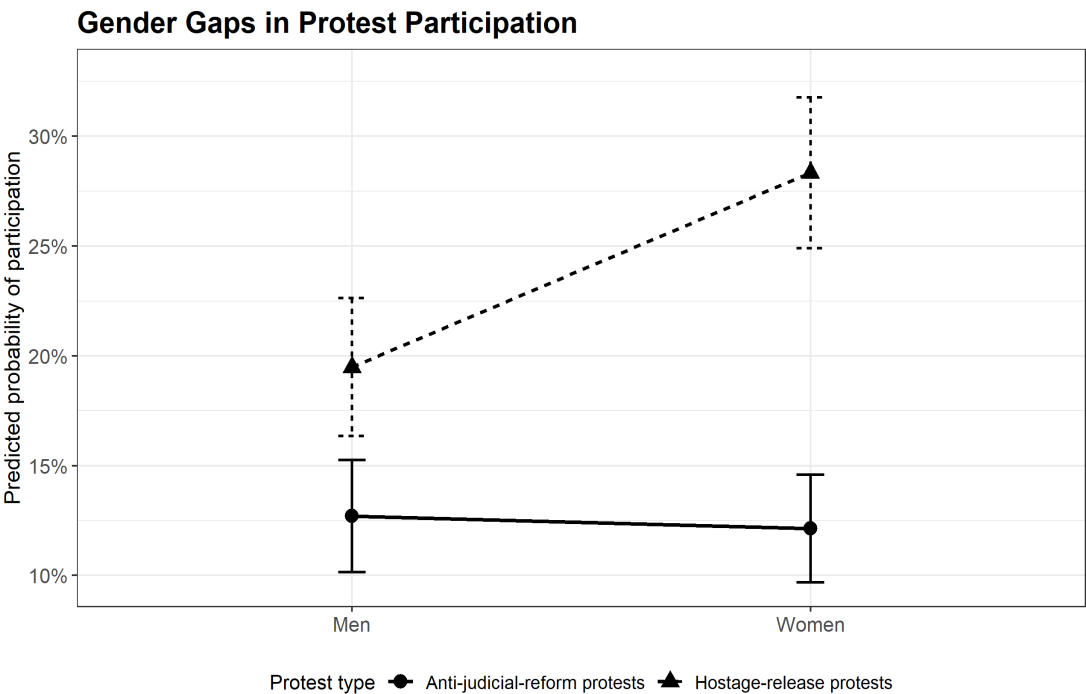
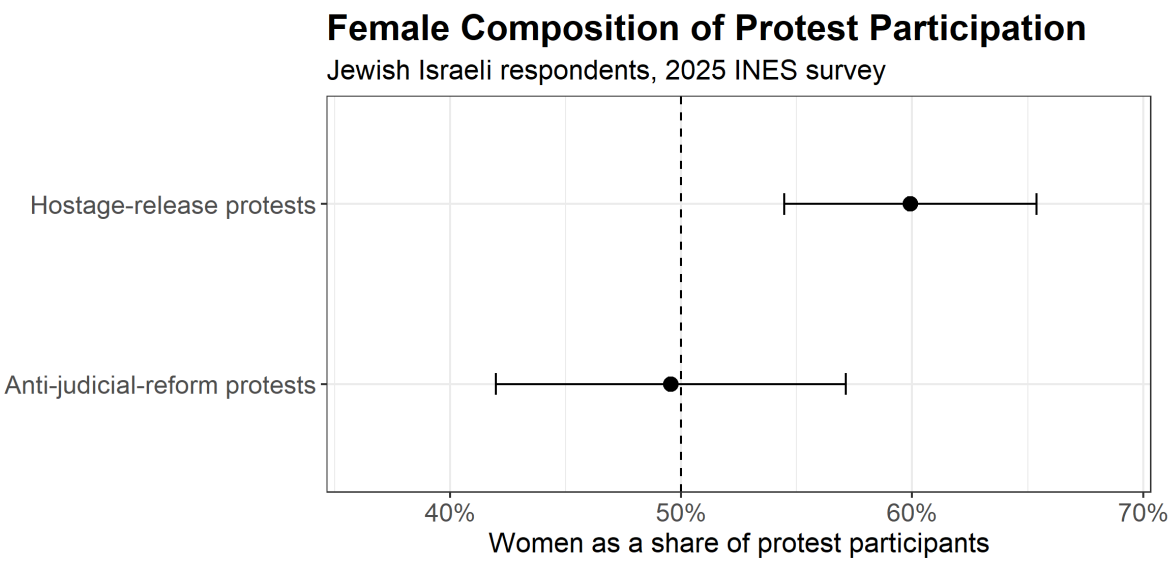
- ・ アウトカム：戦争終結・軍の撤退・全ての人質の解放を含む包括的合意への支持
- ・ 独立変数：ジェンダー(女性 (1)・男性 (0)) →12.64

Gender Gaps in Hostage-Return Preferences
Average marginal effects among Jewish Israeli respondents, January and June 2024



Result（H3: INES2025調査）

- ・ 人質帰還運動、反司法改革運動の**参加者における女性の割合**
- ・ 人質解放：59.93%
- ・ 反司法改革：49.54%
- ・ 人質帰還運動、反司法改革運動への**参加確率 の男女差**
- ・ 人質解放：8.85
- ・ 反司法改革：-0.57
- ・ 二つの運動のジェンダーギャップの差：9.43 ($p < .001$)
- ・ 参加者のジェンダー構成から、人質帰還運動は反司法改革運動よりも明確に女性が数多く参加を申告している。
- ・ 人質解放運動におけるジェンダーギャップは反司法改革よりも有意に大きい。



支持されたのは条件付き選好と参加行動の仮説

H1 一般的な人質帰還要求

支持されない

H2 競合する目標（ハマース打倒）より人質帰還を優先

支持

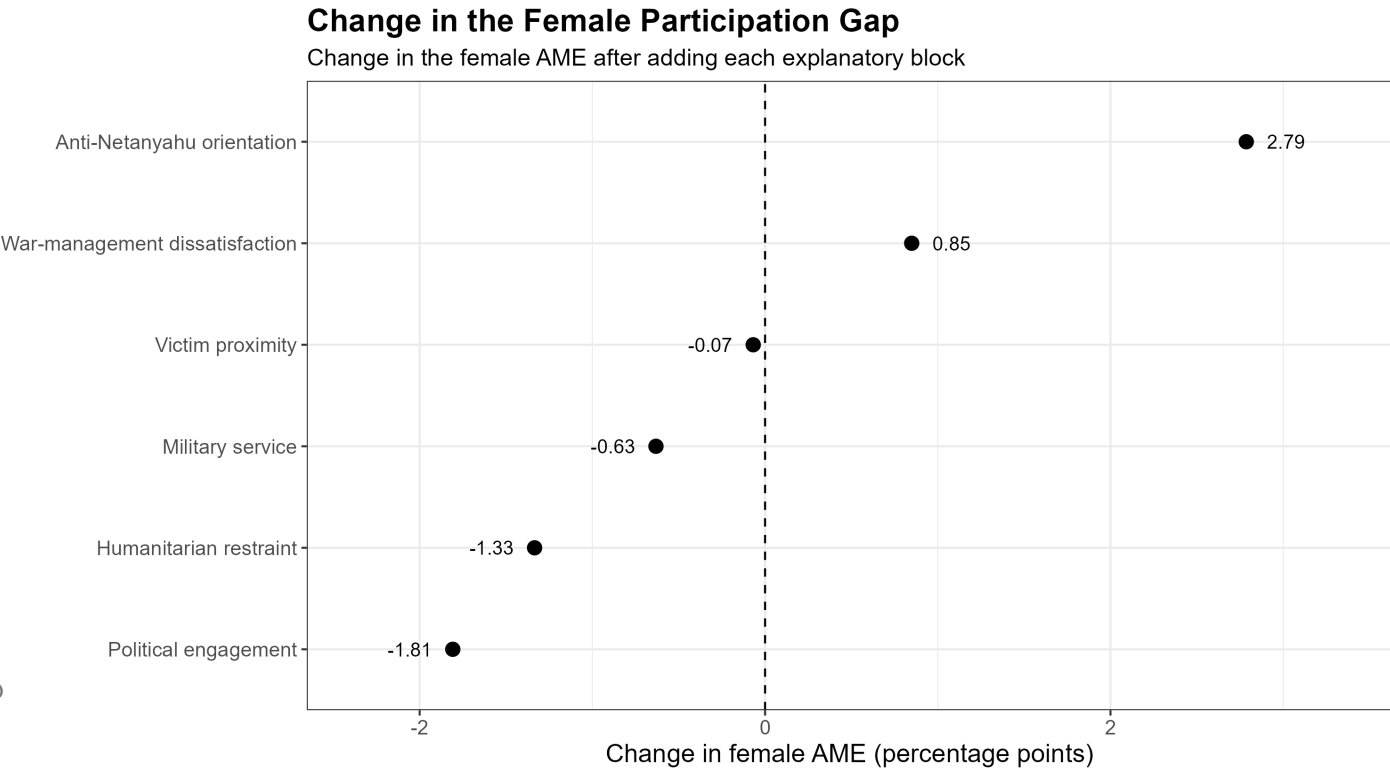
H3 人質帰還運動で女性の参加が多い（反司法改革はジェンダー差なし）

支持

女性が常に平和志向という説明より、選択状況と運動目的に依存する説明が適合する。

なぜ、女性是人質帰還運動により参加するのか？（探索分析）

- ・説明変数ブロックの追加に伴う女性AMEの変化
- ・反ネタニヤフ態度：2.79ポイント差が縮小
- ・戦争政策への不満：0.85ポイント差が縮小
- ・被害者への近接性：0.07ポイント差が拡大
- ・軍務経験：0.63ポイント差が拡大
- ・人道的・法的抑制への支持：1.33ポイント差が拡大
- ・政治的関与：1.81ポイント差が拡大
- ・女性の人質解放運動への高い参加傾向との重なりが最も大きかったのは反ネタニヤフ態度であった。
- ・ただし反ネタニヤフ態度を考慮した後でも、人質解放運動への参加に対する女性の効果は残存した。



投票以外の政治参加で女性が男性を上回るケースについて

1

保有する社会的資源で考える

多くの社会では女性よりも男性の方がより多くの社会的資源を有すると考えられる。ゆえに投票以外の政治参加では男性優位になることがよく観察される。

2

女性的イシューというフレーミングか？

ジェンダー平等など、性差にまつわるイシューでより女性が運動に参加することは理解できる。しかし人質問題は女性的イシューなのか？国家安全保障問題の一種ではないのか？

3

運動参加者の多くは被害者とは距離が遠い

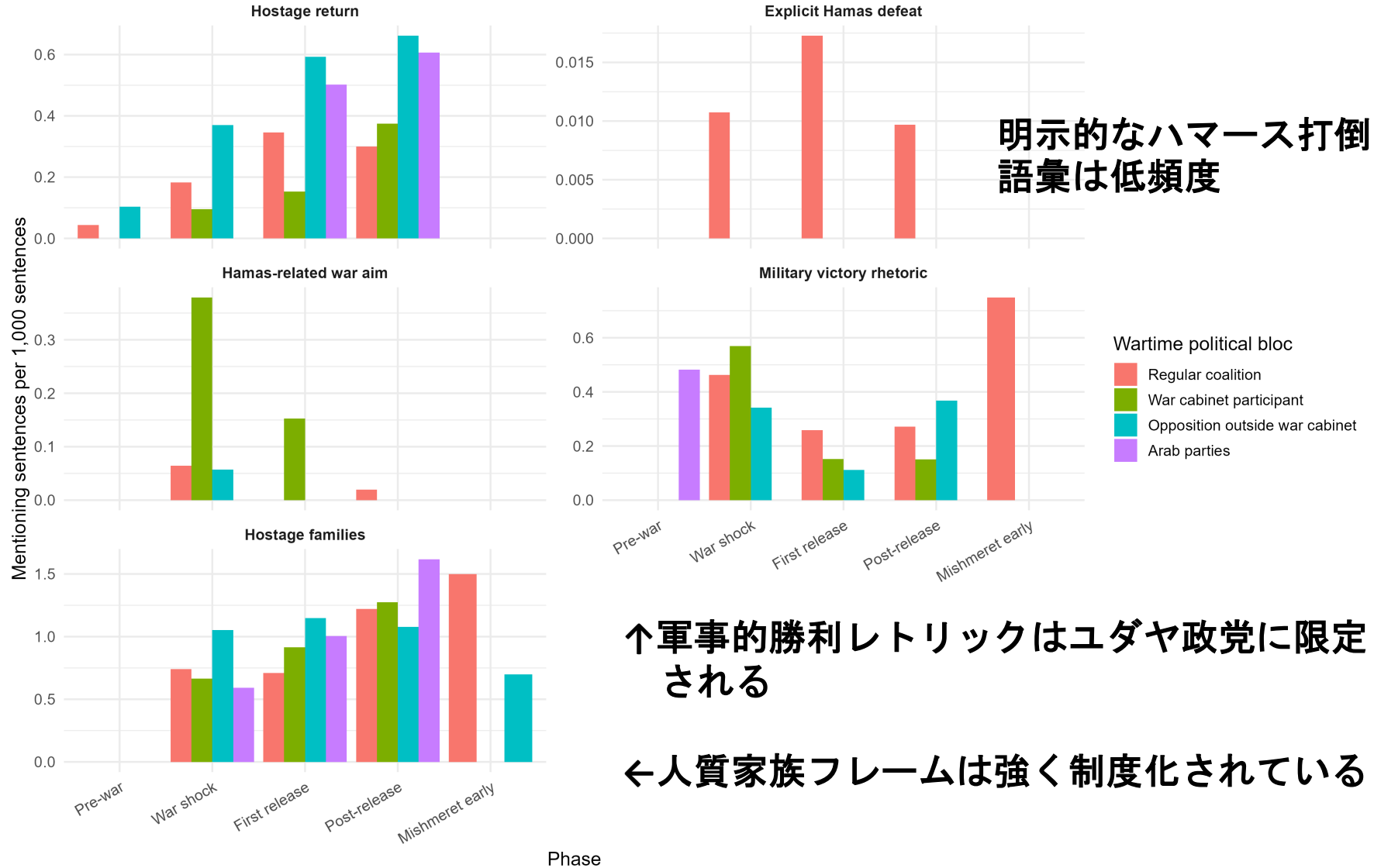
人質帰還運動はなぜジェンダー化されたのか？は分からないまま。
ケア的イシューなのか？共感に基づく連帯なのか？ネットワークが機能しやすいのか？

本研究の意義は、ジェンダー化された政治的態度・社会運動の発見である

クネセト委員会における人質政治の計量テキスト分析

War aims and hostage-family frame across political phases

Knesset committee debates, Aug. 2023-Mar. 2024; MK speeches only



人質帰還は停戦時に
議会争点化

戦時内閣ではあまり
言及されない

クネセト委員会における人質政治の計量テキスト分析

人質(一般)との共起分析

女性/少女、性暴力、子ども、よりも母親/家族という言葉の方が人質と共起していることが分かる

時間の経過とともに母親/家族の共起が増えている

【議会内のジェンダー化は性暴力より家族化として表れている】



人質は国家安全保障問題であるとともに家族問題なので共感が喚起されてジェンダー化している？

Framing within hostage discourse across political phases

Share among hostage-related sentences

